S5 薬学の歴史

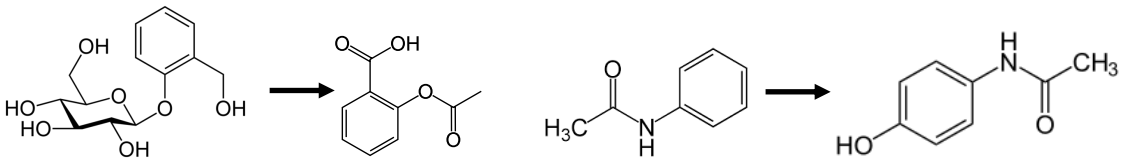
薬の発見に関する歴史

薬の歴史は、古くから書物などから確認されているが、19 世紀に入ってから化合物として薬が捉えられるようになった。フリードリヒ・ゼルチェルネルによってモルヒネが単離されたことを契機として、薬用植物からアルカロイドなどの有効成分の抽出単離が行われるようになった。

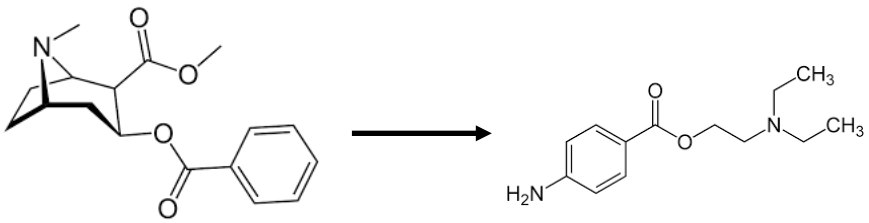
人物	主な功績
ゼルチェルネル	あへんからモルヒネを単離
パスツール	狂犬病などのワクチンの開発
コッホ	結核菌の発見
ベーリング	ジフテリア血清療法を利用して予防、治療する方法を確立
フレミング	ペニシリンの作用を発見
チェインとフローリー	ペニシリンを単離
ドマーク	プロントジル（サルファ剤）を合成
エールリヒと秦佐八郎	サルバルサンの発見
華岡青州	全身麻酔による手術に成功、麻酔薬「通仙散」を完成
長井長義	漢薬麻黄の有効成分塩基であるエフェドリンを世界で初めて単離
高峰譲吉	アドレナリン発見
鈴木梅太郎	世界で初めてビタミン（オリザリン：ビタミン B_1）を発見
北里柴三郎	破傷風の純粋培養に成功

薬用成分の化学修飾により生まれた医薬品成分

19 世紀のモルヒネの単離により薬物療法が発展し、その後、多くの薬用植物から有効成分が抽出され、有効成分の構造決定や有機化学による薬用成分の化学修飾により新たな医薬品成分の生成が行われた。



サリシン　アスピリン　アセトアニリド　アセトアミノフェン



コカイン　プロカイン